



いいなて 議会だより

平成28年9月定例会
No.
72
2016.11.5

発行：福島県飯舘村議会
編集：議会広報編集特別委員会



決算審査特別委員会	2～4
議案審議「ザ・議論」	5
一般質問「村政 ここが聞きたい？」	6～10
審議結果	11
議会の動き・編集後記	12

平成27年度決算審査特別委員会

全ての会計決算を認定

一般会計決算額は、過去最大規模

～復旧・復興事業に49億円～

平成27年度の予算執行について、総括的質疑と確認を行う決算審査特別委員会（松下義喜委員長、高野孝一副委員長）が9月9日、9月12日、13日の3日間行われた。

平成27年度一般会計歳入総額は、91億7,887万円、歳出総額は83億6,901万円となり、歳入、歳出ともに過去最大規模となった。

一般会計は、8億9,850万円の黒字決算となり、翌年度へ繰越す2億9,750万円を差し引いた実質収支は、6億9,000万円、そのうち地方自治法で定められた財政調整基金へ3億1,000万円を繰り入れた。

また決算額のなかで、復旧・復興事業に要した歳出総額は49億5,695万円となり、歳出全体の59%を占める決算となった。

採決の結果、一般会計決算は、賛成6人、反対1人の賛成多数で認定、6件の特別会計は、全会一致で認定した。



決算審査特別委員会の様子

平成27年度一般会計及び各特別会計決算額並びに採決の結果

	歳 入	歳 出	差 引	採決の結果
一 般 会 計	917,887	836,901	80,986	賛成6 反対1
国民健康保険特別会計	161,065	155,670	5,395	全員賛成
介護保険特別会計（事業勘定）	103,727	98,685	5,042	全員賛成
介護保険特別会計（サービス勘定）	600	600	0	全員賛成
簡易水道事業特別会計	11,297	11,267	30	全員賛成
農業集落排水事業特別会計	4,123	4,093	30	全員賛成
後期高齢者医療特別会計	2,403	2,403	0	全員賛成

※金額は端数処理し万円単位にしています

復旧・復興事業の実施状況は

質問 復旧・復興事業に係る部分が6割近いが、これまでの実施状況と、今までの経過をどう捉えているのか。

答弁 未だかつてない予算となり、復興の予算に頼らざるを得ない。国の予算の縦割りが事業の実施に影響しており、繰越が増えている。

かなり復興に向けて必死に国の予算をとって計画に乗せた年であると思っており、村としては精いっぱいやった予算と事業である。

質問 村のニーズに合わない部分があるというような話がある。

さらに復興に向けての準備が必要であるのではないか。

答弁 復興予算に期待しているが、いざ詰めていくいろいろな制約にぶつかる。



復興予算で整備された大谷地住宅

なぜ飲料水対策が進まないのか

安倍総理は全員復興大臣たる認識の元、復興のため何をしなければならぬか、復興庁が指揮をするよう要望している中で、幾らかなりとも変わっていくのではないかと考えている。

質問 比叡、長泥、蔵平、前田・八和木の4行政区に係る飲料水対策がなぜ進まないのか。

答弁 除染が終わっていない部分があり

実施できなかった。

今年度も除染が終了しているところを優先的に進めていく。

質問 4行政区以外の行政区の内、村の水道が入っているところは駄目ということ、使

いにくい部分がある。要綱を変える考えはあるのか。

答弁 簡易水道給水区域外の方には80万円の補助、給水区域内で水道の敷設が困難な場所は50万円、敷設していなかった方には、50万円を上限とする補助する形で行っている。

東電ともそういう内容で協議をしながら覚書の中で取り交わしている状況があるのでご理解をお願いしたい。

昇口舗装の状況をどのよう捉えているのか

質問 帰還生活再生道路（昇口舗装）は515件の申込みが



昇口舗装の様子

あつて142件が完了し、さらに現在発注しているようだが、どう捉えているのか。

答弁 昨年の繰越分と今年200件の測量を進めながら工事を進めている。

質問 一番最初に申込みをした希望者に、突き合せなりすり合わせをおこなったのか。

答弁 当初2分の1と

いう形で進めてきたがその段階では問い合わせという件数で名簿を管理していた。

その後、新たに事業が決定したので申請書ということでお知らせ版等で周知した。何件か申請をしていない方がありましたので、今回の追加で対応させていたのだと思います。

道路の草刈作業は

質問 村道の道路維持管理について、年2回の草刈り、土砂上げ、支障木の伐採をしているとの説明があつたが、県道や国道のこれらの管理はどのように協議しているのか。

答弁 復興事業により村道は実施している。

県道や国道は県に要請はしているが県の単独事業で行っている状況から思うように進んでいない。今後とも早急な対応を要望したい。



質問 村道の維持管理に除草剤の散布は効果があり、今後拡大すべきであるか。

答弁 この事業に除草剤散布は入っているが一概に除草剤で行うと植栽で覆われている路肩が弱くなるので、検討しながら進めたい。

質問 鳥獣被害対策実施隊の活動状況は

鳥獣被害対策実施隊の活動状況は

質問 鳥獣被害対策実施隊の活動状況と隊員の平均年齢はどのようになっているのか。

答弁 月1回の定例会や週3回実施隊の割振りをしてパトロールをしている。

また、箱わなを使つての捕獲等、トータルで388回の活動をしている。

年齢は60代、70代が半々位で、若い方で61歳、80を超える方が1名という内容である。

質問 捕獲した動物に

関して、仮の埋却というか仮埋めの状況はどのようなになっているのか。

答弁 捕獲した猪については、埋却ということとで村有林の中で対応している。いっぱいになるとまた隣に移しながら埋却をしている。



ふるさと納税は

質問 多くのご支援を

いただいた感謝しております。ふるさと納税についてどのような状況になっているのか。

答弁 27年12月1日からスタートし、12月31日まで約8,500人から3億3,000万円の寄付金をいただいた。



ふるさと納税パンフレット

確かに大変な思いになってしまいましたし、村民に大変な思いもさせている訳でありますから、やはりなつてしまった以上はそれをどういうふう

に活用しながら全国の応援に感謝をしていくということが大切ではないかと、このようになことを改めて思い知らされたふるさと納税である。

質問 ふるさと納税された寄付金は、どのような基金に積立てをされているのか。

答弁 飯館楽園基金というものがもととありますので、そこに入らせていただきますが、いわゆる復興のための「陽はまた昇る基金」にその都度その都度、余裕ができたところで入れている。

会計監査意見書(抜粋)

審査に付された平成27年度一般会計及び各特別会計の歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項明細書、実質収支に関する調書、財産に関する調書並びに各基金の運用状況調書の決算係数は正確であり、決算内容及び予算執行についても概ねかつ妥当であると認められる。

原発事故対応により整理が進まなかった村税等の滞納整理についても、東電の賠償による収入などがあり、各種税や負担金の収納が大幅進んだようである。今後とも財政の健全性を維持し、事務事業を効果的・効率的に推進されるよう努力をお願いする。

飯館村監査委員 佐藤 榮一

伊東 利

ザ・議論

平成28年
第8回 飯館村議会定例会
議案第72号『平成28年度
一般会計補正予算』
(第6号)

議案審議

質問 学校再開整備事業設計積算業務について、これまでの取り組みと経過について伺う。

答弁 中学校エリアの積算業務は全員協議会等で説明してきましたが学校運営協議会で検討を進めて来ています。施設の配置、機能、役割等について慎重に進めてきたところです。更には教職員の研修会等でもワークショップでも特徴ある教育内容となるよう協議中であります。

質問 復興事業6整備事業の中で、認定こども園の4事業の基本設計がゼロとなっておりますが、どうなっているのか伺う。

答弁 この部分は交付金上、少人数では該当しないとのことで、事業上は基本設計・実施設計と合わせて頂きたいと考えています。

質問 スマートフォンの普及によるものと思われるアプリシステムの構築事業で委託料が計上されているが内容について伺う。

答弁 村民のみなさんに情報取得の為にタブレットを配布しておりますが、来年度以降交付金の見直しが計画されているとの情報があり、これに変わる仕組みとしてスマートフォンの準備しておきたいと考えています。

質問 農業基盤整備測量設計業務は、災害復旧工事とのことですが、何件なのか伺う。

答弁 昨年度の9月の豪雨災害に関しては、いろいろな事業を盛り込み復旧していきたいと考えております。今回の事業採択分は再生加速化交付金事業対応

で、できるとの事で13事業の委託料を計上しております。工事請負費については、14カ所を災害査定で進めていきます。

質問 きこりの改修が進められているが、本来の機能がすべて整うのか伺う。

答弁 環境的にはそういう状況となりますが、いざ実施となりますと宿泊や料理のことも当然出てきますので、すぐには厨房に調理する従業員を配置してスタートできるかは、今は無理ではないかと考えています。



改修を待つ飯館中学校

質問 スポーツ公園エリアの全体的な仕上がりの予算は総額でいくらになるのか伺う。

答弁 全体の概要を説明しますと、陸上競技場のほうは全天候型で400メートルの8レーンのトラックをつくると、中側の人工芝のサッカー場と本部席も改修し、野球場のほうも人口芝で考えておりまして、他テニスコート、トイレ、ミーティングルーム、更衣室、シャワーなども含めて整備していきたいと考えており、総額23億7千万円程度と見積もっています。



ズバリ 村政

一般質問 Q & A

ここが
ききたい？

9月定例会の一般質問に4議員が登場し、村の対応や考えなどを問いました。

次ページからは、質問した順に質疑応答を要約し掲載しています。

佐藤 八郎 議員

- 1 福島原子力発電所(東電)について
- 2 除染と環境回復について
- 3 村民の身体と健康について
- 4 損害賠償と生活について
- 5 原発事故発生しての避難について
- 6 村民と役場職員と村長について

菅野 新一 議員

- 1 除染全般に関わる課題について
- 2 農地保全と帰村後の農業経営に関わる全般の支援について
- 3 避難解除後の多くの課題と村の対応を伺う

渡邊 計 議員

- 1 介護・福祉について
- 2 二地域居住について
- 3 営農再開(畜産物含む)について
- 4 家庭内ごみの処理について
- 5 除染と線量について

飯樋善二郎 議員

- 1 避難解除に向けての準備体制は万全か、現時点での評価と今後の施策について
- 2 更なる丁寧なフォローアップ除染について
- 3 未舗装の村道、農道について

※一般質問とは

議員が村の行政全般について、事務の執行状況や将来の方針等についての所信や疑問をただすことで、報告や説明を求めるところをいいます。





佐藤 八郎 議員

質 村民の声・願い実現と子どもの健康守れるか

答 各種施設を整備し、多様な学び支援します

質問

去る7月28日の幼・小・中教職員研修会にて、1〜2 $\mu\text{Sv}/\text{h}$ 程度の空間線量率であれば、実際の個人被ばく線量は年間1 $\text{mSv}/\text{年}$ 以下でほぼコントロールできるとし（国の評価式は3〜4倍は過大な評価とし）評価式を示した国の責任は大きく、帰還の妨げとなっ

ているとしているが、この1 $\text{mSv}/\text{年}$ 以下コントロールと個人線量計による実例の考え方と村民への周知について伺う。

答弁

個人線量計の携帯と行動記録付けにより、個人の日常生活で受けた被ばく線量が確認できます。無用な被ばくを受けない為に①

空間線量の高い所を避ける②外での滞在時間を調整する。

質問

同研修会での「できるだけ放射線被ばくを少なくする」努力しながら、外部被ばくと内部被ばくにわけて提案があるが、このことは村民に役立つことなので、周知すべきである。村民の健康な生活を維持するために測定システムと健康相談・指導できる体制の整備も村民にわかりやすくすることは「村民の命と健康をまもる」ことであります。

答弁

外部被ばくは個人積算線量計を帰村する方に貸与し、データを専門家に見てもらい相談（生活・健康）活動していく。内部被ばくでは食べ物や飲料水など測定を行い高濃度の食べ物を食べないよう周知します。

質問

村全体面積の約



教職員研修会の様子

答弁

帰村した子ども

85%に放射性物質（危険毒物）を置いたままで「子どもの帰村」「幼・小・中学校再開」は、子どもを被ばくさせることになります。米・野菜・花・牧草・牛飼育など実証試験をしますが、子どもを被ばく実験に巻き込まないでください。

損害賠償と避難への対応

質問

村と国の交渉の

中で、成果あげたとしているが、村民にとっては不十分であるため、村民はADR訴訟の中で自主的に要求しているのです。村民は「私たちに賠償を決めさせてほしいのです。浪江町・川俣町の同じ立場の方々と一緒に要求したいのです。村長はじゃましないでください。」

答弁

村としてはADR訴訟申し立てすることとは当然の権利であり否定するものではありません。

質問

村民を「避難させないで」と国に要望したのか。当時の実測値なかった上で、「避難はしない」と発言しましたか。

答弁

避難指示は国が行うもので、「避難させないで」「避難させて」とも要請していません。



菅野 新一 議員

【質問】除染全般に関わる課題について

【答】道路除染は七月末現在で80%である

質問 28年度の道路除染の進捗状況はどの位か伺う。

答弁 道路除染の内容

は道路の除草、道路面については、回収形の高圧水洗浄を行っております。道路側溝については、コンクリート製品が敷設してあるU字溝は、堆積物除去と高圧水洗浄し流末で水を回収し、処理を実施しています。また、U

字溝が敷設されていない水路については表土削り取りの除染をしています。

質問 ため池（共用ま

たは個人所有）の用水路の除染は。

答弁 現在、用排水路

除染はU字溝が敷設してある水路については、堆積物除去を実施しています。U字溝が敷設されていない水路、いわゆる土水路について

は、除染工事から外れていましたが、今後の営農再開に必要な土水路も除染をすべきではないかと要望を受け、国と協議をしてきた結果、27年度の途中からではありますが、土水路の表土削り取りの方法で除染を実施しています。

質問 森林再生、または里山除染は帰村後としての取り組みと対応を伺う。

答弁 本村は面積の74%以上が山林であり、ほとんどの家屋の裏手には里山が広がっています。この里山は

居住区域に密接した住民の生活空間の一部であることから、農林水産省の責任において「交付金による里山再生事業の創設」と「林内作業の具体的な基準の策定と弾力的な運用」および「作業員の安全確保にかかる対策

費用の支援」を実施するよう要望しました。関係省庁が連携して、福島県の住民の安心・安全の確保および森林、林業の再生に向けた総合的な取り組みを進めていく方針が示され、「里山再生モデル事業」が示されたところで

す。里山モデル事業は3年の実証期間を設けることとしています。**質問** 農地保全と帰村後の農業経営に関わる全般の支援について。

答弁 「手入れ後の草」については、現在、野焼が全面的に禁止されているため「刈り倒しのみ」としており、刈り払い後の草は集積はしないよう。**質問** 大規模農業経営の支援だけでなく、帰村後は小・中規模経営

に対しても、ハウスの支援をしなければならぬと考えるが、村の対応を伺う。

答弁 小・中規模を問わず、ご要望を聞いた上で国、県の事業活用が可能かどうか検討を進め、営農再開時期が早いものから順次、事業を実施しているところで

す。なお、村単独の事業として農機具やハウス等の補助も検討しているところですが。**質問** 今後、多くの村民が、何らかの事情で村外に、移住、生活圏を有し、生業（仕事）として、村に通うことになる。そのような村民への支援や対応と住民票の取り扱いを伺う。

答弁 村外から通って仕事をされる方への支援については、村民が村の中で行う事業にかかる国、県の補助事業等については、今までどおり村を通し申請する

ようになります。同時に村外へ移住する選択をされた方に対しては、避難の長期化や家庭の事情等によるやむを得ない判断であり、国、県で支援できるもの、村が独自で支援できるものについて、早急に検討し、村民に示したいと考えております。なお、住民票については、村外に転出された村民の方へは、転出先の自治体が行行政サービスを提供することとなります。**質問** 避難前23年3月11日以前の村営住宅、または賃貸住宅などに住んでいた人数と世帯数を伺う。

答弁 平成23年3月11日現在での村営住宅の入居状況は、125戸

416人でありましたその他、村内民間住宅は2箇所14世帯40人となっています。



渡邊 計 議員

質 $1\mu\text{Sv}/\text{h}$ (年間 5mSv) を
下回らない所があるが

答 解除時の空間線量では無い

質問 懇談会で $1\mu\text{Sv}/\text{h}$ (年間 5mSv) で解除の話をされてきたが、低減されていない場所の対応は如何に。

答弁 $1\mu\text{Sv}/\text{h}$ 、年間 5mSv は、解除時の空間線量では無く、村の除染目標値である。対応としては、フォローアップ除染をすすめることであり、今後、国と協議する事になって

介護福祉はどうなる

質問 介護の現状と課題は。

答弁 8月末現在の認定者数は、要支援者が163人、要介護者が328人の計491人となっています。村内の介護事業者は、いたて福祉会と社会医療

法人秀公会の2事業者です。

いたて福祉会は、

震災前の職員数は82人、現在49人、施設は130床、現在は70床で運営。現在の入所者数は36名となっております。

訪問介護、デイサービス、ショートステイは休止状態となっております。

課題は、現在避難先で受けられているサービス等を、帰村されてから、同じように受けられる環境にはありません。当面は、他の事業者が村内で展開しやすい誘導策を検討していきたい。

質問 現在、他自治体でサービスを受けている人数は。

答弁 要支援者114人、要介護者310人(入所者103人)です。
質問 周辺地域からのサービスは受けられないのか。

答弁 サービス業者に對して、介護の時間に対する報酬はあるが、

往復にかかる時間については介護保険の対象外となっているので難しい。

質問 村として交通費を支援すれば受けられる可能性はあるのか、又、支援する用意はあるのか。

答弁 どの地域でも介護員が不足しているのが村が支援したから介護サービス事業者が来てくれるという状況にないということは、間違いないと思われる。

質問 人材確保した場合、住宅など家賃を優遇する考えはあるのか。

答弁 特老ばかりという話にはならないので協議した上でないといけない。
質問 8時間労働は無理だが、2時間、4時間といった短時間なら可能という人もいるの

ではないか。そのような取り組みも必要ではないか。

答弁 多様な雇用というの想着ていく、一つの具体的解決策だと思っています。

質問 介護者にならないよう介護予防事業が大事だと思うが。

答弁 おっしゃるとおりだと思います。保険事業・介護事業を検討し、膨らませていきたいと考えています。



いたてホーム 施設はあるけれど・・・

一地域居住について

質問 なくなることによる問題(制度)はなにか。又、いつ頃まで必要とされているのか。

答弁 村に住民票を残したまま、避難先の小中学校に入学したり、特定の行政サービスを受けられるなどしているが、制度がなくなれば、受けられなくなる。サービスを受けるためには、住所を移さなければならなくなる。又、今後の身の振り方を考えるには、解除後3年ぐらいは必要ではないかと考えている。





飯樋 善二郎 議員

質 避難解除の準備は万全か
答 各施設・道路等、順次補修・改修を進めていく

質問 更なる充実した環境整備が必要ではないか、現在進められている復興拠点や交流センター以外の計画されている事業はどう進めて行くのか伺う。

答弁 深谷の復興拠点以外の整備については、学校関係では飯館中学校舎の徐染と大規模改修を進めており、引き続き草野、飯樋、白石の各小学校についても改修を進めていきま

す。公営住宅については飯樋地区では桶地内団地の新築、笠石団地のリフォーム工事を行い、他に白石も同様に進めていきます。道路についても二枚橋地区のバイパス工事、白石地区の改良工事計画が県より示されており、交通の利便性確保、安全性向上が期待される場所です。村道についても、徐染作業により傷んだ道路について

も、村内全域で順次補修、改修を進めていきます。

解除に向けての多くの課題は解決されるのか

質問 今後、帰村後に求められる生活を維持していく為の収入源となる産業や雇用の場など、帰村に向けた環境整備をどう村民に示していくのか見解を伺う。

答弁 現在、事業所や企業が50社程営業中で人材募集もあり、一定程度、働く場はあるのではないかと、今後の施策としてはまず高齢者も含めた新たな就労対策として整備予定の道の駅「までい館」や花卉栽培施設等での雇用の他、今後必要な、お助け合い事業の担い手や、公共施設の維持管理等の仕事での雇用を検討しています。

未舗装の村道、農道はどう整備する

質問 村道や農道未整備のまま残っています、この際徐染も兼ねて整備を進めてはと思われが、どう捉えているのか見解を問う。

答弁 除染は、環境省所管で新たな舗装工事は出来ない状況となっており、徐染作業にこだわらず、復興事業等で復旧できるように引き続き要望していきます。未舗装道路の対応は、震災以前から実施していました現道舗装工事をしており、今後必要路線を計画的に進めていきます。



未舗装の村道

審議結果

9月議会では、平成27年度一般会計と特別会計決算認定6件、平成27年度補正予算案5件、その他4件が審議され、すべて原案どおり可決されました。議題は次のとおりです。

- 平成27年度飯舘村一般会計歳入歳出決算認定について
- 平成27年度飯舘村国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について
- 平成27年度飯舘村簡易水道事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 平成27年度飯舘村農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 平成27年度飯舘村介護保険特別会計歳入歳出決算認定について
- 平成27年度飯舘村後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について
- 平成28年度飯舘村一般会計補正予算(第6号)
- 平成28年度飯舘村国民健康保険特別会計補正予算(第2号)
- 平成28年度飯舘村簡易水道事業特別会計補正予算(第2号)
- 平成28年度飯舘村介護保険特別会計補正予算(第2号)
- 平成28年度飯舘村後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)
- 大谷団地1期・2期既存住宅解体工事請負契約の変更について
- 災害公営住宅大谷地団地2期住宅建設工事請負契約について
- 飯舘村役場議場映像・音響設備機器の取得について
- 教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて

下は表決の分かれた議案です。

○は賛成、×は反対を表しています。
議長の大谷友孝は表決に加わりません。

議 案 名 \ 議 員 氏 名	高野 孝一	渡邊 計	菅野 新一	北原 経	松下 義喜	伊東 利	佐藤 八郎	飯樋善 二郎	大谷 友孝	賛 成	反 対	審 議 結 果
平成27年度一般会計決算	○	○	○	○	○	○	×	○	-	7	1	可決
平成28年度一般会計補正予算	○	×	○	○	○	○	×	○	-	6	2	可決

議会の主な動き(7～9月)

- 《7月》**
 - 4日～5日
 - ・ 広報編集特別委員会
 - ・ 研修(新潟県聖籠町)
 - 7日
 - ・ 一般質問
 - 8日
 - ・ 議会全員協議会
 - 9日
 - ・ 決算審査特別委員会
 - 12日
 - ・ 決算審査特別委員会
 - 13日
 - ・ 決算審査特別委員会
 - 16日
 - ・ 議会全員協議会
 - ・ 議案審議(最終日)
 - 27日～28日
 - ・ 産業厚生常任委員会
 - ・ 所管調査(三重県)
- 《8月》**
 - 19日
 - ・ 議会運営委員会
 - ・ 全員協議会
 - 27日
 - ・ 第7回臨時会
- 《9月》**
 - 1日
 - ・ 議会運営委員会
 - ・ 第8回定例会(初日)

常任委員会の活動

産業厚生 常任委員会

7月28日、帰村に向けた村民生活基盤とインフラの整備に係る医療体制の確保と道の駅「までい館」建設に係るコンセプトの確認のため訪問調査。

《主な内容》

9月1日から村内で再開される「いいいたてクリニック」の運営、管理状況について、福島市の「あづま脳神経外科病院」を訪問した。薬剤の処方については、利用者の利便性と安全安心な生活環境の面からも特殊な薬剤以外の院内処方希望する。

◎子育て支援施設「すくすく」を訪問視察。毎日安定した利用率となっており、福島市



始まった村での診察

民の施設利用者も多く子供だけでなく母親たちの交流の場として、運営されていた。

◎道の駅「までい館」の建設に伴い、二本松市「道の駅・安達上下線」の店舗の営業状況を視察。

特に調査内容に当たっては、交通量の規模、物販メニューの選定、食事スペースの有効利用は大切なことである。

村営農再開希望者への継続的な支援が施設の運営には欠かせない。

い。美しい村連合や交流・支援自治体の特産品の取扱い等も不可欠である。新たな目新しい仕掛けも必要である。

9月27日から28日の2日間、三重県津市の「赤塚植物園」及び県内最大規模の道の駅「朝津味」を視察研修した。

赤塚植物園は、道の駅と併せて整備する花卉栽培施設の参考とすべく、多くの展示品を見学した。

「朝津味」は、地産地消を特長としている。

今後、村復興拠点の道の駅「までい館」建設に向け、村民はもとより県内外からも多くの人が喜んで利用できるよう、そして雇用の場としても重要な施設としたい。

編集後記

一段と秋の深まりを感じる季節になりました。7月1日から本庁での業務再開となり、議会並びに議会だより編集も本庁において行っています。

より見やすくわかりやすい広報づくり編集作業を心掛けています。

村民が安全安心な生活ができる村づくりのため、みなで力を合わせ頑張りましょう。

発行責任者

議長 大谷 友孝

編集

広報編集特別委員会

委員長 飯桶善二郎
副委員長 渡邊 計
委員 松下 義喜
〃 北原 経
〃 菅野 新一
〃 高野 孝一